

姫路城周辺において課題となっている事業

1 動物園のあり方についての検討

(1) 現状

昭和26年に開園し、平成31年2月28日現在で103種401点の動物を飼育しており、年間約50万人の入園がある。

①飼育動物は将来における移転を見据えた選定を行う、②遊戯具は、利用状況と耐用年数及び安全性を勘案し、縮小に努める、③動物とのふれあい等による体験学習機会、種の保存などの調査研究機能の充実の3つを柱とした運営及び管理方針を定め、運営を行っている。

(2) 今後の方針

昨年度、現状分析及び各種調査を行っており、その結果を基に、動物園のあり方検討部会の中で移転等について検討を行う。

2 姫路城ミュージアム等周辺施設整備の検討

(1) 現状

公共公益施設の効率的な運営と機能向上、特別史跡地にふさわしい土地の活用などについて、姫路城跡中曲輪施設整備方針を策定し、施設整備の検討を行っている。

(2) 今後の方針

周辺施設や関係部局等と調整を図りながら、機能や施設規模・位置等について検討を進める。

3 姫路城周辺での休憩施設整備の検討

(1) 現状

姫路城周辺の施設と姫路城を結び付け周遊性を向上させるとともに、①姫路城の景観を楽しむ機能、②飲食等を楽しむ機能、③情報発信機能を有する休憩施設の整備を検討している。

(2) 今後の方針

美術館周辺を候補とし、地下遺構及び景観に配慮するとともに、DBO方式など民間の活用を含め、整備の検討を進める。

4 姫山公園整備の検討

(1) 現状

大正元年に一般公開されて以来、市民等の憩いの場所として利用されているが、改修等も行われているものの、施設の老朽化が進んでおり、雨天時には、排水不良による冠水などが発生している。

(2) 今後の方針

公園としての利用に支障が生じているため、施設改修、排水機能の向上、遺構表示等について検討を進め、施工を行う。

5 姫路東消防署の老朽化対応の検討

(1) 現状

姫路城や姫路城跡の防災の拠点であり、本庁舎・付属棟（昭和50年建築）、倉庫棟（昭和61年建築）を使用しているが、施設の老朽化が進んでいる。

(2) 今後の方針

庁内外の関係部局と協議を行うとともに、調査・検討を進め、①大規模改修、②建替え、③新築移転の中で、最適な方針を模索し、令和6年(2025年)を目途に実施する。